

令和5年度 学校評価報告書

園 名 藍 幼 稚 園

1 教育目標

- 心豊かで
たくましい子ども
- 友達といきいきと
遊ぶ子ども

2 重点目標

「心はずませ いきいきと遊ぶ子をめざして」
 ～4,5 歳児が共に過ごし、主体的に活動するための環境構成や援助のあり方を探る～
 (4 歳児)安心して生活する中で自分の思いを出し、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
 (5 歳児)友達と共に心動かし、考え、遊びや生活を進める楽しさを味わう。

3 自己評価結果

分野 領域	評価項目	幼稚園の取組状況・ 改善の方策	4 学校関係者評価
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児が心動かし、意欲的に活動する保育内容の充実 ・幼児が自分で考え、選び、行動することを支える援助の工夫をする。 ・幼児一人一人の育ちや課題を共通理解し個々に応じた支援や環境の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児自らが考え、やってみようとすることを支える援助(個々の発達に合わせて)の工夫や環境について考え、計画し、実践できた。 ・幼児一人一人の育ちや課題、教師の願い等、教師間で共通理解を図り、カリキュラムの見直しや支援方法、環境構成の工夫に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児一人一人個性があるのは当然である。一人一人の特徴を考えての保育は重要であるが、大変だなといつも感心しています。 ・一人一人育ってきた環境が違うということを気にかけるのは良いことだと思います。
	<ul style="list-style-type: none"> ○異年齢混合学級について保育計画の工夫 ・4 歳児 5 歳児それぞれの成長、発達の姿を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの年齢に応じた保育内容を工夫し、必要な経験ができるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・混合保育ってどのようにされているか、興味がありました。学年が一つ違うのは重大なことで、社会での経験であると思います。
保護者・地域住民との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と連携した体験活動の充実 ・地域の方と体験活動の計画を立てたり、活動後の学び、成長等を話し、幼稚園教育への理解を図ったりする。 ・本園の歴史を振り返り、園を訪れる方々との触れ合いを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方には、活動の趣旨に相違がないよう普段の幼児の様子等を伝え、事前に現地を訪れ、園外の状況把握に務めた。 ・地域の方との交流を通して、感謝の気持ちを伝えることができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人が園を訪れても、園児達はとても人なつっこいです。先生方の丁寧な姿を、子どもたちはきちんと見ているのだと思います。
	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者への積極的な情報発信の工夫 ・登降園時、保護者に園での様子(異年齢混合保育の話)を伝える。 ・通信や掲示板などで園の取り組み、幼児の育ち等を伝え、幼稚園教育への理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が今、何に興味関心をもっているのか、どのような育ちがあるのか等、保護者へ発信していく事で、園や教師の願い、幼児の思い等がより伝わり、幼稚園教育への理解を図ることに繋がられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家に帰ってから、子どもたちは幼稚園のことを話すと思いますが、親たちがしっかり子どもの話を聞くことで、次なる親たちも園への理解に繋がるのだと思います。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ○親と子が安心して集える場や機会の工夫 ・「すくすくひょうごっ子」を用い、子育てについて語る場をつくる。 ・子育て支援の情報発信の仕方を工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・すくすくひょうごっ子を用いて保護者と話をした。少しの時間で親子がほっこりできる時間や場の持ち方や、家庭の状況などを出し合い、前向きに実践してみることをすすめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園での生活は、子どもたちが共通であります。ただ、家庭の生活は、皆それぞれ違うので、家庭でのきまりや約束などのしつけは大切だと、自分の子育てを通して感じます。
保幼小中連携	<ul style="list-style-type: none"> ○学びの連続性を意識した保幼小中連携の充実 ・保幼小中での交流活動の充実を図る ・小学校と連携について年間計画を立て、職員同士が児童、園児について話す機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や手紙を通して中学生と交流し、トライやるウィーク等のかかわりがもてた。中学校区(園所)連携を計画したが、状況(気象及び健康面)が伴わず、実施できなかった。 ・小学校とは、幼児・児童が互いを意識し、自ら行動できる連携を中心に活動した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの小学生とのかかわりがなくなってしまうのは残念ですが、幼児達は、これまでの小学生の姿をしっかり見ていると思うので、大きくなって覚えていると思います。 相手の気持ちがわかる人に育ってほしいです。

(別紙様式2)

5 総合的な評価結果

- ・ 幼児の姿を、職員それぞれが把握し、慎重な「幼児理解」を心がけることで、幼児自らの行動や、個々の発達に合わせた保育計画へと進めることができた。
- ・ 幼児の体験が大切である地域での活動に、それぞれの地域の方が、幼児を理解してくださっていることが、歴史を振り返る中で、再度実感できた。
- ・ 小学生との活動を振り返る中、幼児が小学生に憧れ、自ら行動にうつし、やってみたいと心動かす場面が多く見られた。この豊かな経験が、幼児自身のこれからの成長につながっていくことと願いたい。

6 総合的な学校関係者評価

園児の数が減少していく中であったが、少ない人数だからこそ学べた経験を、一人一人の子ども達が、成長の段階で発揮してくれることを願いたい。

昨年度から始まった混合保育であるが、縦社会の一步を幼稚園で学んでいると捉えている。貴重な2年間だったと思う。

幼稚園の閉園、残念であるが、子どもの成長を長い目で見ながら、次の目標をもち、進んでほしい。